

『むしうた』作品集

展示期間

2023年7月1日(土)~7月29日(土)



市民ギャラリー

作品名	『むしうた』作品集
応募者名	香川 真澄
住所	山陽小野田市
展示期間	7月1日(土)～7月29日(土)
プロフィール	1959年、下関市長府生まれ 詩人・俳人・イタリア文学翻訳者 第六回朝日俳句新人賞奨励賞受賞 詩集に『ていくらまこむ』『ぼくべらし』など 俳句集に『長府』『蘭花』 翻訳に『香の男たち』『ぶどう酒色の海』など





ありのみち

みたごになさ
 ありのみちの、きりなはら
 なを、unnunusis
 へごせうちの
 ちんさくせんり、nnv
 へんをぬ
 ちんさくせんり

かえのみち

しゅっかくてあいなつをかわこ
 くわえたえさをかかて
 たた、ひたすらあゑへ
 じゅうだんのへんで
 いっひきは、いみをなます
 こせいはおもんじられない
 みたことがない

ありのみちの、しんがりを

ひょっとか、このみちは
 きおへのかなたにはじまり
 ときのおわりまでつへのかもしれない
 たた、もへもへつじき
 なかへ、のことがないちにを
 ほごせ



あとがき

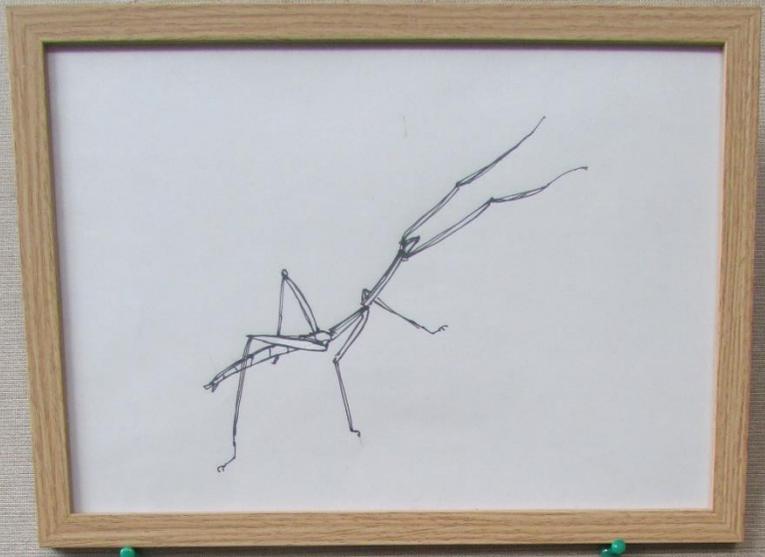
詩人・室生犀星さんの『動物詩集』を読んでいて、ふと、虫を題材にした詩を書いてみたい、と思いよみました。子どもが虫が好きで、授業が退屈になると、教室を抜け出して、山や小川で虫を探検して、家で飼ったりしていました。そのころは、虫博士と呼ばれたのもしてからです。虫は、偉だらしい生き物あいます。くちかから編、とききはら編へら詩を作りました。子どものころにも書いたような気持ちで、くちくちてていました。虫のことがたら、いいいへるも書けような気がしたのです。

虫の名前はカタカナが似合いますが、虫の詩を詠むにあたって、ひら

かなだけで書いてみようか決めました。大人はちるを、子どものも読んだほしかったからです。虫は身体が小さく、動作がもしろく、ふしぎで、おちゃめです。こし悲しげです。そしてここが、人間に似ています。だからきっと、虫の詩はだなたにも読んで、楽しんでてもらえるはず。ほんたうは、手を読めんだたか、虫たちにも読んでほしいんらいなのです。

2020年11月 ONO

かがわますみ



ななふしぎ

ななふしのななふしぎ
いち：いへらなでてもほろほろ
にい：にてるものではかたえた
さか：なまもあてもななふしぎ
あか：あかあかあかあかあかあか
しほ：しほしほしほしほしほしほ
ろく：ろくろくろくろくろくろく
なな：ななふしのななふしぎ



Wonderful memories
in that you can remind them
whenever you like.

香川 真澄



～コメント～

1959年、下関市長府生まれ。
詩人・俳人・イタリア文学翻訳者
第六回朝日俳句新人賞奨励賞受賞
詩集に『ていくら まこむ』『ぼくべらし』
など

俳句集に『長府』『餅花』
翻訳に『青の男たち』『ぶどう酒色の海』
など